

第1節 公害苦情の件数

1 公害苦情の件数

平成24年度の公害に関する苦情件数は196件で、前年度よりも21件増加しています（表12-1、図12-1）。

表12-1 年度別公害苦情の件数

年度	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	地下水	その他	合計
15	38	42	63	6	61	0	0	6	216
16	31	35	42	12	76	1	0	5	202
17	32	53	79	17	78	0	0	7	266
18	26	46	49	20	98	0	0	5	244
19	26	64	60	7	80	0	3	6	246
20	21	51	70	6	88	0	1	3	240
21	13	44	69	8	73	0	1	2	210
22	18	49	85	22	51	0	1	5	231
23	8	31	72	10	52	0	1	1	175
24	16	42	74	9	48	0	1	6	196

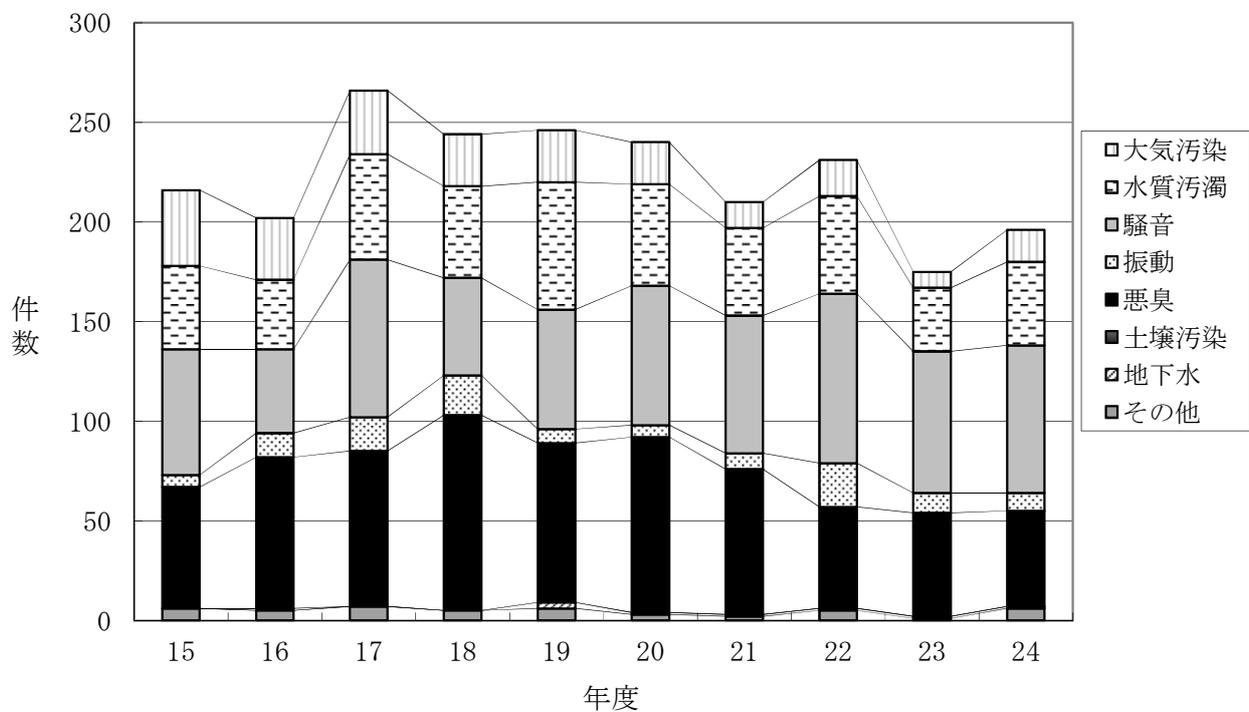


図12-1 年度別公害苦情件数の推移

2 種類別の苦情件数

苦情件数を種類別にみると、騒音の苦情が最も多く、以下悪臭、水質汚濁、大気汚染、振動、地下水の順となっています（図12-2）。

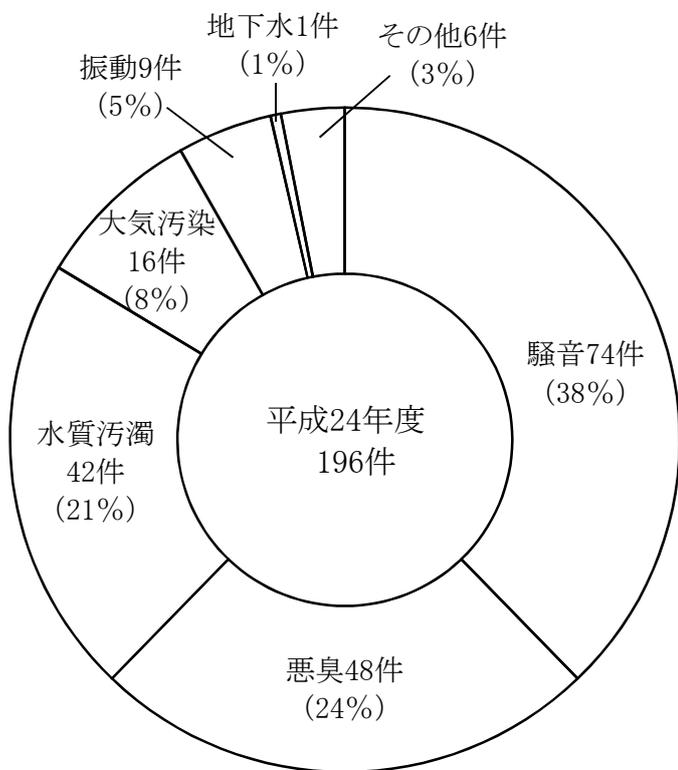


図12-2 種類別苦情件数

3 月別の苦情件数

苦情件数を月別にみると4月が最も多くなっています。5月も多く、6月以降はほぼ横ばいが続きました（図12-3）。

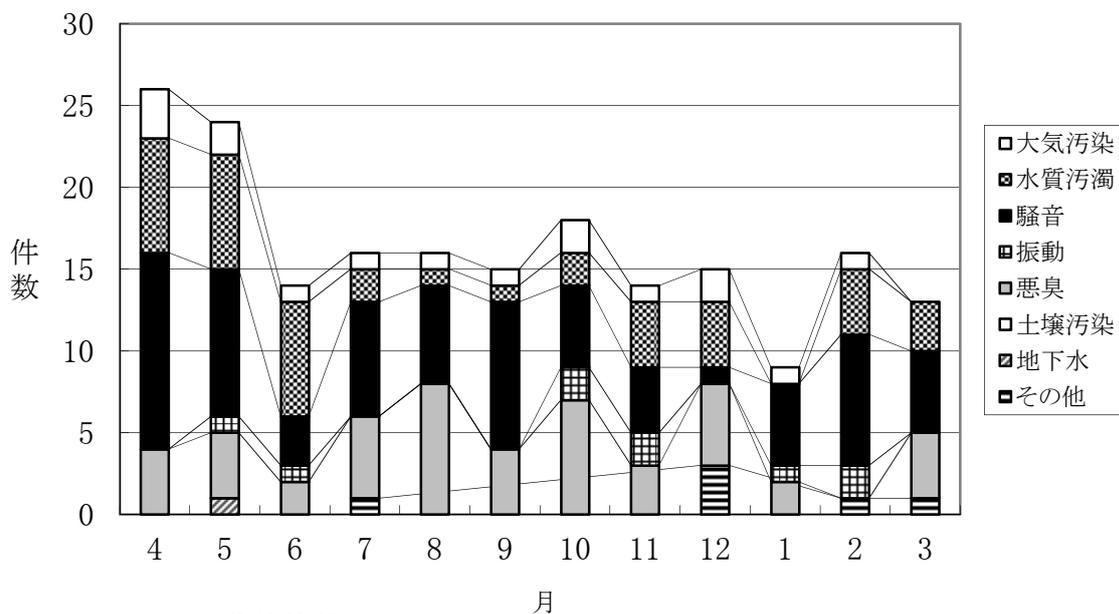


図12-3 月別の苦情件数

4 業種別の苦情件数

苦情発生源を業種別にみると、苦情件数が最も多かったのは総合工事業の46件で、次いでサービス業の40件、製造事業所の18件、家庭生活の15件となっています。

表12-2 発生源の業種別の苦情件数（平成24年度）

業種	大気	水質	騒音	振動	悪臭	地下水	その他	合計	
耕種農業									
畜産養蚕農業					2			2	
農業サービス業					1			1	
林業									
漁業									
金属工業									
石炭原油鉱業									
非金属工業	1							1	
総合工事業	4	1	33	6	2			46	
その他工事業		2	4	1				7	
製造事業所	食料品製造業	1	1	1		5		8	
	繊維工業	1	1					2	
	木材製造業	2						2	
	パルプ製造業								
	出版関連産業								
	化学工業								
	石油製造業								
	プラスチック製造業								
	ゴム製造業								
	窯業等製造業								
	鉄鋼非鉄金属								
	機械器具製造								
	その他製造業	1	2	1		2			6
	(小計)	5	4	2		7			18
雷気ガス等							1	1	
水道業									
鉄道業			2	1				3	
旅客輸送業	1							1	
貨物輸送業		2						2	
航空運輸業									
その他運輸業									
サービス業	再生資源卸売		1					1	
	卸売・小売業	1		6		1		8	
	飲食業	1		5		2		8	
	飲食店のカラオケ			2				2	
	洗濯理容業等					1		1	
	駐車業								
	生活関連サービス								
	旅館等		1			2		3	
	娯楽業			1		1		2	
	娯楽業のカラオケ								
	ゴルフ場業等					2		2	
	自動車整備業			1				1	
	機械修理業								
	専門サービス業								
廃棄物処理業	1	2						3	
医療業等	1		1					2	
社会保険福祉									
教育等									
その他サービス業			3		4			7	
(小計)	4	4	19		13			40	
公務	1		1		2			4	
家庭生活		1	4		8		2	15	
家庭生活ペット					2			2	
事務所									
道路			3	1	1			5	
空地									
公園									
神社寺院等									
その他		2	3		4		3	12	
不明		26	3		6	1		36	
合計	16	42	74	9	48	1	6	196	

5 用途地域別の苦情件数

苦情の発生源を用途地域別にみると、苦情件数が最も多かったのは住居区域の100件で、次いで商業地域の34件、調整区域の29件となっています。

表12-3 用途地域別公害苦情件数

	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	地下水	その他	合計	比率 (%)
住居区域	5	18	46	6	23	1	1	100	51.0
近隣商業		1	1	1	4			7	3.6
商業	3	2	22		6		1	34	17.3
準工業	1				1			2	1.0
工業	2		1		1			4	2.1
工業専用	1	3			2			6	3.1
調整区域	1	10	4	2	8		4	29	14.8
その他	3	7			3			13	6.6
特定できず		1						1	0.5
合計	16	42	74	9	48	1	6	196	100.0

6 被害の種類別の苦情件数

苦情原因を被害の種類別にみると、苦情件数が最も多かったのは感覚・心理的の133件で、次いで健康の47件となっています。

表12-4 被害の種類別公害苦情件数

	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	地下水	その他	合計	比率 (%)
健康	5	4	18	2	16		2	47	24.0
財産				1				1	0.5
動物・植物		4						4	2.0
感覚・心理的	11	25	56	6	30	1	4	133	67.9
その他		9			2			11	5.6
合計	16	42	74	9	48	1	6	196	100.0

第2節 公害苦情の概況

1 大気汚染

苦情件数は16件で前年度より8件増加しました。

ばい煙に関するものは6件で、発生源としては野焼き1件、焼却炉1件、ボイラー等4件となっています。

粉じんに関するものは10件で、発生源としては工事現場6件、工場等4件となっています。

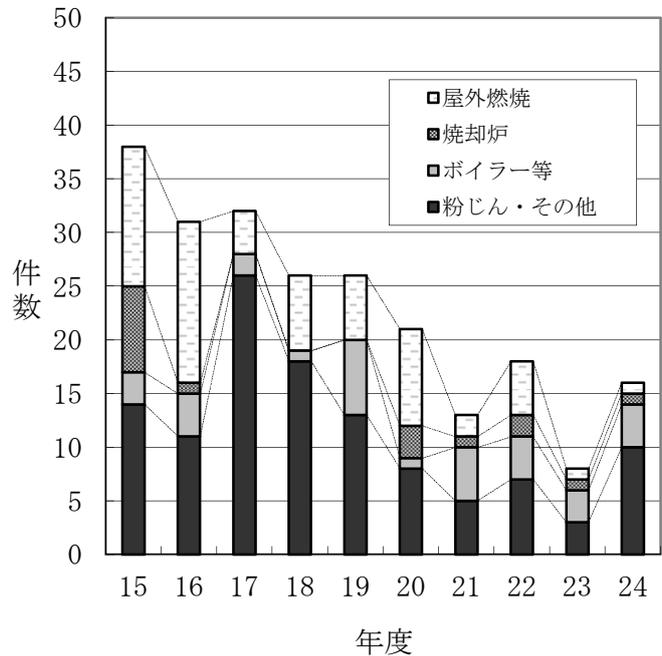


図12-4 大気汚染苦情内訳

2 水質汚濁

苦情件数は42件で前年度より11件増加しました。

種類としては、汚水24件、油流出11件、へい死魚7件となっています。

河川汚濁事故対策としては、発生源に対する汚水処理の適正指導、汚濁物質の取扱い事業所に対する文書指導、広報誌による意識啓発等を行っています。

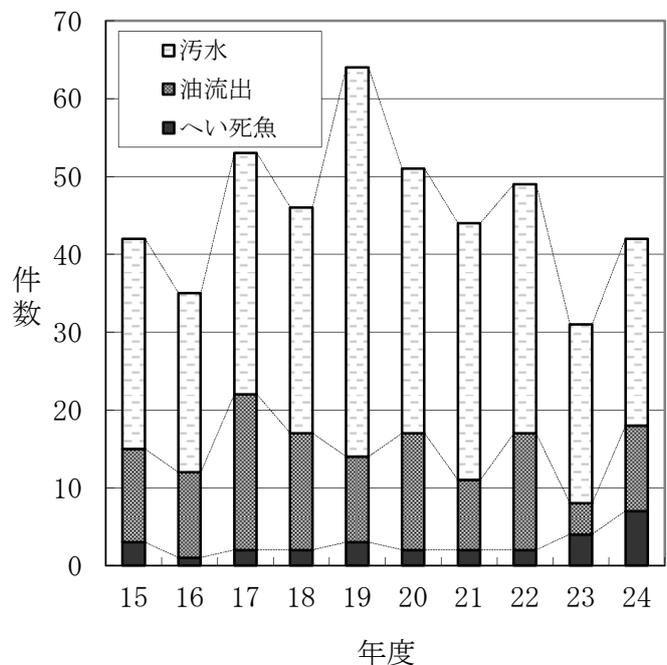


図12-5 水質汚濁苦情内訳

3 騒音

苦情件数は74件で前年度より2件増加しました。

発生源としては、工場・事業場等3件、建設作業37件、営業騒音8件、拡声機放送3件、その他自動車や家庭生活23件となっています。

聞く人の身体や心理の状態、聞く時間や周囲の状況によってうるさく感じる度合いが異なり、また、個人の感情面にも左右される要素があります。

さらに、発生源と苦情申立者が隣接しているにもかかわらず、当事者間での話し合いが持たれる前に、苦情として市に申し立てられることが多く、隣人同志のコミュニケーション不足も都市・生活型公害が増加する大きな要因となっています。

現代の都市形態の中で、快適な暮らしを維持していくためには、自分自身の生活だけでなく、他人の生活への配慮が必要です。

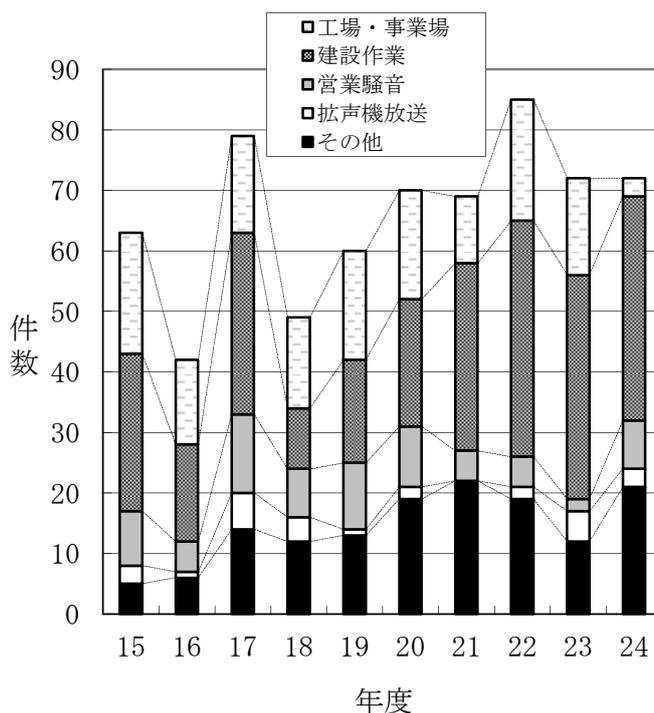


図12-6 騒音苦情内訳

4 振動

苦情件数は9件で前年度より1件減少しました。

発生源の内訳は、工場・事業場0件、建設作業6件、道路交通2件、その他（鉄道）1件となっています。

大型車両による移動や建設現場でのバックホウ・ニブラを使用した解体作業、資材置場での荷物の積み下ろしなどが、発生源となっている事例が多くみられました。

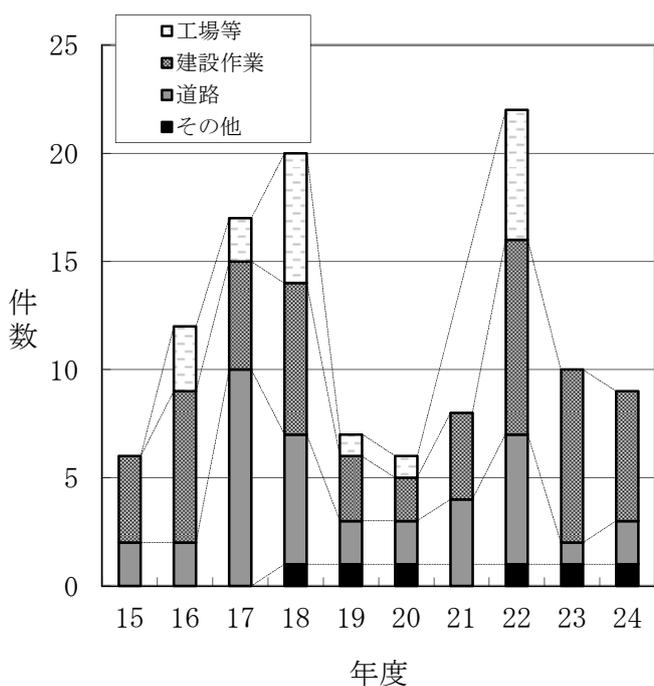


図12-7 振動苦情内訳

5 悪臭

苦情件数は48件で前年度より4件減少しました。主な苦情発生源は家庭生活15件、工場・事業場15件、畜産・農業4件、塗料のシンナー臭2件、側溝4件、その他や発生源不明8件となっています。

畜産農業系の苦情については、都市化による住居と畜産農家との混在化、住民の快適環境への要求の高まり等が原因と考えられます。

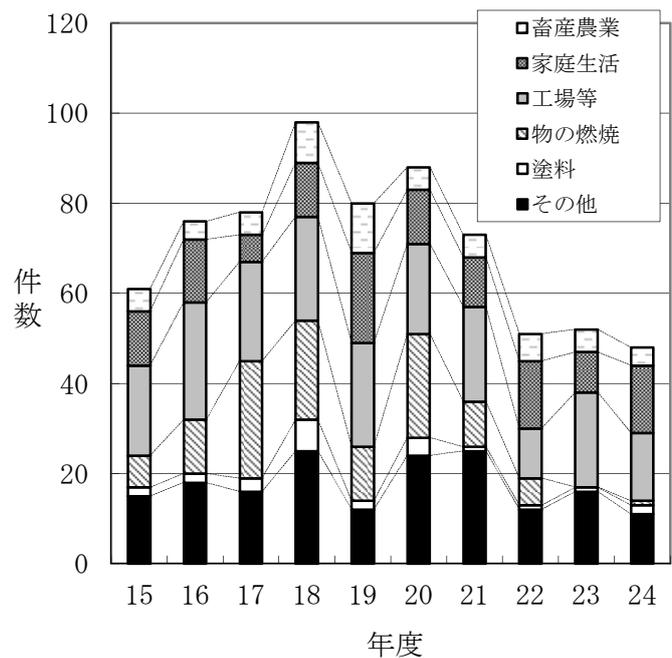


図12-8 悪臭苦情内訳